

## 第3回 CIG 区民サポーター会議 開催結果

【日 時】2019年3月20日(水) 18時00分～19時15分

【検討テーマ】今後実施すべき取組み(施策)・事業

### 〈エコロジカルネットワーク〉

- ・住宅や企業に緑があることが、住む人や働く人に意識され、エコロジカルネットワーク作りに参加する意思付けがされていくことが大事。
- ・荒川と仙台堀川公園を結ぶ緑地帯を整備し、荒川を移動してきた生物を区内に誘導してはどうか。
- ・エコロジカルネットワークと言うが、緑をつなげていく施策がない。

### 〈生物多様性〉

- ・大きなビオトープの造成も必要。都市計画公園のうち未供用の公園をビオトープ公園として整備してはどうか。
- ・ビジターセンターを併設し、区民へ自然情報の提供や自然教育を実施するとよい。
- ・環境教育のなかでもビオトープがある事がちゃんと認識されていない。何をやっているのか知らしめることが必要。
- ・小動物が人と係りながら居心地がよくなる緑空間の作り方、野生動物と一緒に状況を作っていく。
- ・エコマップをオリンピックまでに作成し、区内緑化地区、区内生物多様性ホットスポットをプロットしてはどうか。オリンピック来場者がマップで回れるようにする。オリンピック後も改定更新する。
- ・民間緑化ガイドラインを作成し配布する。民間所有地、企業所有地、学校・病院等の施設所有地(屋上を含む)の緑化推進、樹種等の誘導による生物多様性緑化に協力してもらう。協力した区民、企業、施設には表彰とエコマップへのプロットを行う。
- ・生物多様性地域戦略を行政と市民共同で策定する。
- ・侵略的外来生物の撲滅を目標とし、駆除作業に対し予算を付ける。駆除は市民団体が実施する。(アメリカザリガニ、ミシシッピーアカミガメ、ウシガエル、アレチウリ等)
- ・散歩道に高木を植栽して緑陰を作る。渡り鳥などのねぐらとなるような場所が凹凸空間がよい。
- ・鳥は飛んでくるけど、公園緑地にリスなどの小動物の姿が見えない。

### 〈にぎわい〉

- ・水辺に近づける形状が求められる。ヨット、カヌー、ボードセイル、レガッタなど人力・風力での水面遊びの自由度がある。人が集まれば、経済が動き、にぎやかさがある。水面使用の規制緩和が必要。

### 〈防災・減災、安全・安心〉

- ・防災施設も日常から使わないと分からない。みんなが日常から係るとコミュニケーションが生まれ、技術もレベルアップする。
- ・夏季の暑い日を、街路樹の木陰で安全にする。樹木の植栽により延焼しないなどの認識を広める。
- ・中高生など若い人の参加があるとつながりができて防災にもつながる。
- ・緑陰となるような街路樹の空間が乏しい。
- ・7m、10mと言われる洪水、高潮、津波等大型台風時の防災機能は期待できない。
- ・災害時の一時集合所として公園を指定しているが、洪水時に公園に集合は不可。
- ・公園が冬は高層ビルの日陰となり、夏は風がさえぎられて蒸し暑くなるため不快。
- ・舟運は洪水時に内部河川と外部河川の水位差をどのように調整するか。
- ・1949年8月31日、キティ台風による水害を経験すれば救助用ボートが必要。

### 〈みどりの管理・運営の体制〉

- ・緑はあるが保全し・育てる人がいない。民有地、企業の土地も管理する仕組みが必要。
- ・緑を管理するにも参加するメリット・喜びがほしい。みどりの意味づけが必要。
- ・仙台堀川公園を区と市民連携で運営管理してはどうか。生物多様性に配慮した公園管理を行う。隣接地での

物販のほか、冒険遊び場・炭焼き等公園の自然を利用した活動、イベント等を開催し、区民利用を促進する。

- ・ ネイチャーリーダー講座は、身近な自然に興味を持つ層への普及啓発のイベントに変化させるなど、その時々で柔軟な形態で実施してはどうか。
- ・ ポケットエコスペース管理は無償ボランティアの意欲に依存してきたが、全ポケットエコスペース管理を市民団体に業務委託し、持続的な保全管理を可能とする仕掛けに移行してはどうか。一方で、公園アダプト制度等とポケットエコスペース管理を連動させ、多様な市民参画の形をつくっていく。
- ・ 学校エコスペースは市民団体が学校とネットワークする（情報交換、管理面での連携）。また、学校ビオトープを利用した観察会など団体が実施し生物多様性教育と連動させる。
- ・ 民有地緑化、地域緑化、ベランダ緑化は材料支給とする。
- ・ 一年中きれいにするには花の交換、水やり等手間暇がかかる。
- ・ ボランティアとして、資材、用具、労力を区民にもとめるのは無理。
- ・ 区と町会が管理について協議して地域住民とともに使い方の規則を決めるべき。
- ・ 掛け声だけでは人々は動かない。町会員で、町中のプランターに花を植えて水やりを継続したり、各家庭に一株の花を配布して各家でも育てて育成を楽しんだりしている。
- ・ 多くの人々、老若男女に参加してもらうためには「江東区みどりの日」など、イベント実行すべき。例：街をきれいにする日。

#### 〈生物の実態把握〉

- ・ 区内の生物を把握することが必要。江東区にも貴重な生物がいるので、ピックアップして緑の基本計画に関連付けていくと良い。
- ・ 区内生物相の調査を5年毎に実施し、報告書を作成してはどうか。江東区の特徴的な生態系、生物相、希少な生物相は保全計画を立て実施すべき。

#### 〈教育との連携〉

- ・ こどもたちへの緑の教育方針づくり、小さい頃から緑を理解する教育が必要。緑への理解度が上がり、心が豊かになる。緑に親しむこども達が成長したらなお良い江東区になる。
- ・ 学校教育と連携と問題を預けるが学校は教科教育でいっぱい。何でもかんでも学校に放り込んででもそれでは解決にならない。

#### 〈その他〉

- ・ 植栽柵は街路樹とか宿根草を植えても良いのではないかと、街路樹として機能は十分。
- ・ 区内の雑木林の管理は切る更新のほか、椎茸のほだ木や炭焼きなど自然体験に近いものとしていくと良い。
- ・ 一次産業の復活を図りたい。
- ・ 江東区の親水公園は面白みに欠ける。冒険遊び場のように、環境教育のようなこども達が木登り出来るような場所があると良い。指導できるプレイリーダーがいることで良くなる。
- ・ 多様な緑空間を作っていく戦略・作り方が必要。
- ・ オリンピック施設建設のため、樹木が伐採され利用された空間を緑地に復元する。
- ・ 区民農園は区割りし一部の区民が専有する現在の形式ではなく、全スペースを耕作し参加する区民が協働で野菜を育て、収穫した作物は防災時の配給用に保管する。学校の残飯や伐採枝葉からの腐葉土を肥料として利用し、地域循環させる。
- ・ 後継者不足で工作が困難になっている千葉県近郊の谷津田を区が借り受け、区民の耕作の場として利用する。子供の自然体験の場として整備し里山管理する。収穫した作物は防災時の配給用に備蓄する。地域連携をし、谷津田の生物多様性の維持に江東区民が貢献する。
- ・ 公園で野菜や果樹がダメという話はあるが、規制緩和して食育に繋げいくとよい。
- ・ 雨や日差しが強い日でも集まれる、屋根つきの施設の充実があれば集まりやすくてコミュニケーションが生まれる。